

函館市役所職員労働組合との交渉の概要

- 交渉日時 平成23年11月28日（月）19：00～22：05
○交渉場所 市役所8階大会議室
○出席者 当局側 工藤市長，中林副市長，各部局長 他 計約40名
組合側 長谷川執行委員長，他 計約90名

交渉項目	平成24年度 事務事業・組織機構の見直しによる職員数の見直しについて
交渉要旨	<p>(組合) 提案内容に、「労使一体となって」とあったが、今後の労使関係についてはどのように考えているか。</p> <p>(市長) 労使関係もそうであるが、一緒に働いている職員同士としての関係も重要であり、ともにまちづくり，まちの再生を行っていきたいと考えている。そのためにも、職員自身が元気にならなければならないと考えており、業務の見直しも進めていきたいと考えている。今後とも信頼関係を保ちながら市政を進めていきたいと考えている。</p> <p>(組合) これまでの行革も一つの要因かもしれないが、職員が減っているのに、業務量が同様に減っていないことなどから、不安を抱える職員も多くおり、コミュニケーションが不足している状況にある。隣の状況も分からないということもあると聞いている。これまでの市長の「変えなければならない」という思いは十分にわかるが、その発言の仕方・やり方について、もっと庁内で協議していただいた方がよいのではないか。</p> <p>(市長) これまで先輩－後輩関係で指導などもしてきたが、職員が減り、時代の変化ということもあるかもしれないが、そういうこともなくなってきた。職場の風通しを良くし、周囲の状況にアンテナを張る必要もある。強い人ばかりではないということも認識しており、みんなでカバーしていくことが大事だ。組合側の協力もお願いしたい。</p> <p>私は、これまでも担当部局が知らない発言はしていない。スピード感を持ってやっているが、関係部局には事前に話をしたり，検討してもらっている。報道内容が全て正しいわけではないことは承知してほしい。</p>

(組合)

誤った報道があった場合には、市長としても配慮をお願いしたい。職場の状況については、体調を崩す職員が増えており、何らかの対策が必要と考えている。また時間外勤務もだいぶ増えてきており、ライフ・ワーク・バランスも崩れ、日常生活にも影響が出ている状況にある。一方でサービス残業も増えており、こうした状況の解消をお願いしたい。

(市長)

管理職のマネジメント能力については、多少の差はあるかもしれないので、係長職の補佐機能、管理職の資質の向上も必要と考えている。一方で、労働者の環境は厳しくなっており、私は額に汗する人が報われる地域社会を作っていきたいと考えている。恒常的な残業については決して好ましいものではなく、調査も必要と考える。職場環境の改善については、温度や広さだけでなく、コミュニケーションなども含め、労使一体となって改善委員会などを設置して取り組んでよいと考えている。

(組合)

何より風通しの良い職場が必要であり、市長提案の労使の委員会での議論を行っていききたい。残業については、恒常的に数時間というものが増えてきていると捉えている。時間外手当は以前より予算額上は減っているが、実態はそうではないということも理解していただきたい。

平成12年から引き続き行財政改革を行ってきているが、厳しい状況は変わっていないと考えられる。どう捉えているか。

(市長)

平成12年の時は財務部長で、市税が少なく脆弱な体質であったことなどから、どうしても行革しなければならないということで、他都市より早く職員数の削減にも取り組んできた。しかしながら、職員数を削減してきても、社会保障費の増大には追いつかなかった。その後も所得の減少、市税の減少などが続き、その穴埋めを人件費で行うという形となり、皆さんに対しては申し訳なく思う。市民サービスの部分に手をつけないわけではない。職員の給与や人員削減だけで対応しようとするわけではないことは理解いただきたい。

(組合)

12年前と理由が変わっていないのではないか。あまり見直しをしないで新規事業に着手してきたのではないか。そのしわ寄せが今来ているのではないか。そこは反省として受け止めていただきたいと考える。財政状況をきちんと踏まえ、人件費総体として行革を進めていく必要があるものと考えている。

(市長)

当時において、職員数が多いといわれており、そういうことから削減を進めてきた。当時において、いろいろ提案したが、なかなか取り上げてもらえず、その後もこれまで新たな取り組みはなされてこなかった。行革については、トップの決意がなければ進まない。私は不転の決意で行革を進めるつもりである。経常費の見直しのみでは間に合わない。市民サービスにも手を付けなければならない状況になっている。ぜひご協力をいただきたい。事業の見直しについては、役割の終わった、効果の薄れているものは、それをやめて、場合によってはほかに振り向けていく。今回は中学生まで医療助成を拡大するというで経費を出している。総体で減らしながら、必要などころには、いくつかまわしていくなど、工夫しながら、大幅な低下ではなく、我慢するところは我慢するけど、必要などころは必要だということを進めていきたい。

(組合)

ただ、こっちで減らして、こっちで増やすということばかりでは、もう駄目である。これまではスクラップアンドビルドでよかったが、今後はスクラップ・スクラップアンドビルドで行かなければならない状況になっている。

(市長)

こっちで10減らしても、こっちには5か6しかまわせない認識である。市の財政は交付税頼みなので、常に赤字の危険性を抱えていることになる。その対応として、基金の積立額も40～50億円は必要と考えている。毎年ハラハラしていた状況であり、それが破たんして、赤字となりにつちもさつちも行かなくなった。

(組合)

そういった厳しい状況も十分認識しており、先ほど人の削減を先駆けて行ってきたと言っていたが、我々もアウトソーシングについて、喧々諤々議論し、最終的にある意味踏み出そうと方針を打ち出したことは、

	<p>自治労でも初めてだと思う。他の都市からもかなり批判を受けたが、やっつけていかなければならないということで努力もしてきた。その結果として、今があると思うが、職場環境も悪化してきたと認識している。先ほど委員会も作ってとあったが、そういった議論もきちんと反映されるような新たな行革プランにしていきたい。</p> <p>また、委託先、嘱託職員、臨時職員などのワーキング・プアの問題について、解消していくための施策についても努力していきたい。</p> <p>(市長)</p> <p>私は労働者保護については言い続けてきた。公契約条例も検討しなければならないと考えている。汗をかいている人を大切にしたい。</p> <p>(組合)</p> <p>委託先の問題については、これから公契約について検討されると思う。札幌市も公契約条例を制定することなので、ぜひ参考にするなどして前向きに検討してほしい。</p> <p>(市長)</p> <p>民間へお願いだけでは難しい。制度設計は大事だと思っている。</p> <p>(市長退席後、提案内容について各部局長から説明し、概略的質疑が行われ、詳細な事項は各支部で行う。)</p>
交渉結果	(交渉継続)
備考	<p>※29日は、各部局長からの説明および質疑を引き続き実施した。(18:00~20:00)</p>

(総務部行政改革課 平成23年12月2日現在)